

発刊にあたって

神奈川県自然環境保全センターは、平成12年4月に、「県立自然保護センター」、「箱根自然公園管理事務所」、「丹沢大山自然公園管理事務所」、「森林研究所」及び「県有林事務所」の5事務所を統合し、丹沢大山保全計画をはじめ、様々な緑関連施策の総合的な展開を図ることを目的に設立されました。現在、丹沢大山保全対策の推進のほか、自然保護思想の普及啓発、野生生物の保護管理、丹沢大山国立公園などの自然公園の管理、県営林の管理経営及び自然環境保全に関する調査研究など種々の業務を行っております。

県立自然保護センターの時には、県内の自然に関する情報などを中心に「自然保護センター報告」を発行していましたが、この度、統合した利点を活かし、これらの様々な業務から得られた自然情報や知見を広く発信することにいたしました。

そのため、いわゆる学术论文ではなく、実際に現場の職員が業務の中で得られた情報を中心に掲載しております。

今回、掲載した内容は、これまでも取り上げてきた傷病鳥獣保護業務の情報のほか、移入動物関係業務、丹沢大山保全対策事業や県有林事業など多岐にわたっております。

さらに、日頃当センター業務にご指導をいただいている先生からの特別寄稿を掲載しております。昨年9月の「事業報告会」において基調講演をいただいた羽山先生（日本獣医畜産大学）からは、ニホンジカの保護管理の問題について、当センターの講座などでご指導いただいている浜口先生（平塚市博物館）からは、丹沢の生き物たちについて寄稿していただきました。なお、この特別寄稿は、今後とも随時掲載してまいりたいと考えております。

また、当センター研究部の「業務報告」及び「研究報告」は従来どおり発行することとしております。

この冊子の内容は、あくまでも現場の情報として記録、保存したものでありますので、第一線の声としてご理解いただくとともに参考にしていただければ幸いです。

平成14年3月

神奈川県自然環境保全センター所長 **石田 哲夫**